

# 平成 24 年度「若年期の肥満予防対策事業評価部会」議事録

日時 平成 25 年 3 月 19 日（火）午後 3 時 45 分~5 時 15 分  
場所 大阪府庁新別館南館 7 階研修室 7

## 1 開 会 （司会 健康づくり課 江上）

- ・健康づくり課 三宅課長補佐あいさつ
- ・委員紹介及び保健所管理栄養士、事務局紹介

## 2 議 題

議事進行 （木山部会長）

### （1）おおさか食育通信について

- ・平成 24 年度更新内容等について （金山） 資料 1-1・1-2
- ・食育マガジン、メールマガジン報告 （松本） 資料 1-3~1-5

（部会長）食育マガジンはイベントの内容や報告以外に今後はどんな感じですかすすめていく予定なのか。

（事務局）ページのボリュームは月々によって多少前後する。現在、イベント情報ページも作成したので、イベント情報をお知らせし、イベント情報にリンクするということの一部を行った。今後はイベント情報を掲載するとともに、現在も行っているが、その月に更新された内容を食育通信の中での更新内容のお知らせ、また、検討課題もあるが、バナー広告も掲載いただいている管理栄養士・栄養士養成校の取組みも一部紹介するということも含めて考えていきたい。

（事務局）先ほども事務局の方から説明をさせていただきましたが、来年度はぜひとも学校の取組みを掲載させていただきたい。自校の取組みが掲載されると、アクセス数増が期待され、とても有難い。ぜひとも使っていただきたい。各校の取組み内容の原稿を提供いただく際は、所定の様式を作成した方がよいか、もしくは、様式は示さない方がよいか。

（委員）すでに学校のホームページやブログに掲載している様式があるので、決まった様式がないほうがそれを活用できるので、よい。

（部会長）逆に、バナー広告を載せている学校のリンクにこれが貼られているかどうかということですね。

（事務局）リンクを貼る場合にお問合せをいただくことがある。例えば、食育通信に栄養表示等リサーチ事業報告を掲載した際に、参加していただいた大学から、大学のブログに掲載したいので、リンクさせてよいかとの問い合わせをいただいたが、全校ということにはなっていない。

（部会長）学校のリンクにおおさか食育通信があれば、学生にアクセスしてもらえ、メルマガ登録数も増えるのではないかと。バナー広告掲載の 8 校と一度相談してみてはどうか。

(2) 若年期の肥満予防対策事業について

① 大学生の生活習慣病予防対策事業 {KARADA 元気セミナー}

・ 実施要綱、各保健所での実施状況 (田中)

資料 2-1・2-2

・ 平成 24 年度 KARADA 元気セミナー中間報告 (中村)

資料 2-3・2-4

(委員) 「KA・RA・DA 元気セミナー」の「KARADA」と分けている意味を教えて欲しい。

資料 2-3 が内容的にもデータも興味深い。BMI18.5 未満が開始時 17.0%から終了時 13.5%に減少している。これは非常に良いことだと思う。ところが、摂取エネルギーが 1854.4kcal から 1737.9 kcal に減少し、これは炭水化物の摂取が低くなっており、飲料水の関係だという説明を受けたが、女子学生の行動変容がみられたデータがあれば紹介してほしい。

(栄養士) 詳細な分析はこれから行うため、すぐにお示しすることは難しいが、評価結果を栄養改善業務に活用していくことになるので、それまでお待ちいただきたい。

「KA・RA・DA」は目を引くタイトルが大事ということでこの事業名を考えた。

(委員) BMI の開始前、終了時の変化は、開始前を起点にどう変化したかで評価すべきである。

(栄養士) ご助言ありがとうございます。そのように見直します。

② 外食アドバイザーを活用したメタボ予防対策事業 (大西)

資料 2-5・2-6

③ 「野菜バリバリ！ヘルシー居酒屋」推進事業 (大西)

資料 2-7・2-8

④ 「ヘルシー中華」推進事業 (西本)

資料 2-9

(委員) ③について、実績報告をみると、ブロックによる差が大きい。この差を保健所管理栄養士はどう考えているか。

(栄養士) 3月いっぱいまで活動中ということもあり、これから増えていくブロックもあると思われる。

(委員) 承認店舗数の目標数はいくつか。

(栄養士) 明確に府保健所全体での数を定めず、各ブロックの職場チャレンジで決めている。

(委員) 食育計画で目標設定があるのだから、府保健所としての年間目標がなければ達成できないのではないか。

(委員) お客様アンケートの数が少ない。これだけ少ないと、その店舗のお客さんの姿を反映しているとは言い難く、評価に使うのも難しいのではないか。これをとる意味があるのか。提供者(お店)側の意識をどう変えるかのほうが重要ではないか、それなら店主店員アンケートだけでよいのではないか。

(委員) かつて取り組んだとき(平成19年度)に、提供側と食べる側の両方の意識が変わらないと行動変容、野菜摂取量増加につながらないのではということでこのような評価内容になった。当時、これをやろうとしたときに、中国野菜の事件が起こり、できなくなった。居酒屋は若い人、女性も多いので、野菜摂取を促す事業として再度スタートした。対象を絞り、モデル実施で行って良ければそれをさらに拡大していくというやり方もよいのではないか。

- (委員) お客様アンケートはお店とお客様のコミュニケーションツールに割り切って、お客様の意識の変化の評価は、意識変化後の行動の変化として、注文されたメニューの質の変化（ヘルシーメニューが追加されたなど）で評価してはどうか。
- (栄養士) 店内掲示のツールとして、写真つきで野菜たっぷりメニュー紹介をしている。お店として利用者に指導でき、伝えられるようなものをお渡ししているが、どこまでできているかは検証できていない。熱心なお店は定員の研修を希望するところもあった。
- (委員) 注文内容を改善させるには、お勧めヘルシーメニューの勧め方などについて、店員教育を徹底するとか（そのための店員教育用マニュアルを作るとか）、方法の工夫も必要である。メニューの紹介ツールのようなものを作成し、店長が朝礼やミーティング時に店員に徹底できるようにすることもひとつの方法である。
- (栄養士) 定番の野菜たっぷりメニューの紹介ツールはすでに作成して、お店に提供するなどしている。
- (委員) この事業の評価としては、お客様の意識、行動がどう変化したかということ、何を把握するかが課題か。  
店舗の選び方は、個人経営の店もチェーン店も、両方がよいのではないか。チェーン店も、野菜提供について意識の高い店はあるはずである。また、考えてほしい。

(3) ファミリー食育推進事業 大阪府食生活改善連絡協議会委託

①「野菜バリバリ・朝食モリモリ元気っ子」推進キャンペーン報告

資料 3-1

②事業開催時（親子料理教室等）における「食育」アンケート結果  
事業テーマ「伝えたい！おおさか伝承の味

資料 3-2

～なごやか共食 みんなで楽しく健康に～

- (部会長) 子どもにとって母親と一緒に食事を作るということはとても楽しみである。
- (委員) いろいろな発見があり、続けていて会員も楽しんで実施している。

(部会長) その他何かあれば発言を。

特になし。

- (部会長) 本日の予定議事につきましては、以上です。  
ありがとうございました。それでは司会の方、よろしくお願いします。
- (司会) 本日はいただきましたご助言やご意見等をもとに、平成 25 年度も効果的な事業を進めてまいりたいと思います。  
これをもちまして、平成 24 年度若年者の肥満予防対策事業 評価部会を終了させていただきます。ありがとうございました。

### 3 閉 会